スの濫用防止のために，何等かの形式の患者負担が必要であると考えてきた」とのべている。

しかし 5000 人の医師を代表する医師連合 Council of Medical Practitioners' Union は，料金復活には反対であるとし，「適用除外のカテゴリーをいかに周到にきめたとしても，深刻な影響をうける多くのケースがでてくるであろう。また，医師の事務的負担を倍加することは避けられないとのべている。

その他，処方箋料の復活により 5000 万ポンドとみこまれていた節約額が適用除外制の導入により僅か 2500 万ポンドに止まらざるを得なかった点，その効果を疑問視する議論もみられる。

いずれにしても，「国民保健事業の処方箋料の復活ぐらい労働党にとって苦々しいことはない。現時点において，いかなる政治家といえども，どうしてもやらざるを得ない一つの手段ではあろうが，政府ならびに労働党にとって外傷的後退であることはまちがいない」であろう。

(*The Times*, Jan.)　(田中　寿)

Bevan と処方箋料

処方箋料復活に関する Wilson 首相の決定は，1951年に処方箋料が導入された際，これに反対して，閣僚を辞任したといわれる故 Bevan 氏や Wilson 氏の名を辱かしめるものであると，主として労働党左派などから強く非難され党の分裂をも憂慮された。

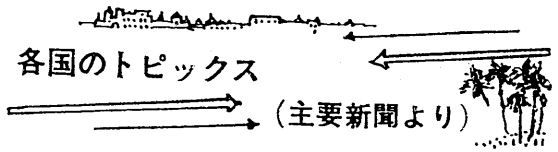
「Bevan 氏が処方箋の導入に反対して，閣僚を辞任した」というのが今日の通説となっているが，この通説をめぐって興味ある論争が投書の形式で数日にわたり The Times 紙にけいさいされた。その論者は二人の労働党議員である。

■Bevan は処方箋料導入を支持した■

(Woodrow Wyatt)

1951年に Aneurin Bevan が労働党を辞任したのは「処方箋料の導入に反対したためである」と一般にいわれているが，これは誤解である。これは事実ではなく，Bevan 氏は支持している。1949 年10月24日，Attlee 氏は首相として，下院でつぎのようにのべている。「われわれは，国民保健事業において，1 処方箋ごとに 1 シリングの料金を課すことを提案する。この目的は，医師による不必要な処方箋の乱発を抑制するためである」と。私は，Bevan 氏が議会の労働党の会議の席上でのべた，つぎのような演説の一節をよく記憶している。「われわれは，イギリス人が薬を滝のようにのどに流しこむのを止めるための方策をたてねばならない。かれらは薬瓶を手にしっかり握って離そうともしない」と。

Bevan 氏は，しばしば，下院その他の場所において，処方箋料の導入決定を支持し，無料処方箋が過剰処方の原因であるという事



実に言及している。たまたま，処方箋料が実施されたのは，Bevan氏が辞職した後の1952年以後であったが，彼は所要の立法準備作業の張本人であったのである。

Aneurin Bevan 氏と Harold Wilson 氏が辞任したのは，Gaitskell の 1951 年予算における義歯と眼鏡の料金制導入に反対したためであった。私は，1949年の Bevan 氏の態度からして，今般の処方箋料復活を承認するであろうと確信する。」 (Jan.5)

■Bevan は処方箋料導入に反対した■

(Michael Foot)

「処方箋料に対する Bevan 氏の態度に関する1月5日の Woodrow Wyatt 氏の説は，まったくの誤解であるので訂正したい。Bevan 氏は保健相としての全期間を通じて，巨額な公的支出を必要とする保健と住宅建設を所管する重要な政策部門の責任者であった。しばしば氏は一方の部門を守るために他方の部門の要求を制限せねばならなかった。

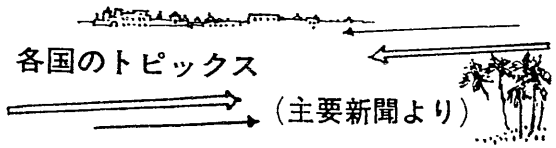
1949年，1 シリングの処方箋導入をほのめかした Attlee 氏の声明に，Bevan 氏が賛同したのはこうした理由もその一つであった。Bevan は，提案はしぶしぶ認めたが，その具体化には最終的には応ぜず，大臣在任中には料金制は実施されなかった。1951年 4 月23日の彼の辞任声明（彼が自由に発言できた最初の機会であり，この問題について率直に彼の見解をのべた権威ある声明）は，この点を明らかにしている。彼はこの声明において，無償サービスの原則に，いったん亀裂が生ずれば，他にも波及するものであることを警告し，とくに処方箋料についての危惧を表明している。

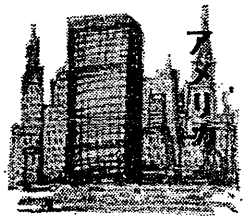
多くのスピーチにおいて，Bevan は「イギリス人ののどに流しこまれる薬の滝」に言及しているが Wyatt 氏はこのことを歪曲している。

この問題に対する Bevan の治療策は，医師にはもっと責任をもって処方するよう奨励または要求すべきであって，病人に対して料金を課することではなかった。

Bevan は，1952年に公刊された彼の著書 In Place of Fear（邦訳，山川菊栄「恐怖に代えて」岩波書店）の一章において，濫療の問題について論じている。いわく「薬は余りに浪費されている。このことを認めない医師はなかろう。……その解決策は医師自らの毅然たる態度であり，患者の教育である」と。彼の解決策のどこにも処方箋料の主唱はみられない。Wyatt 氏の説は事実をゆがめるものである。(Jan.8)

(田中　寿)





社会保障法の大改正